

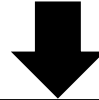
舗装補修事業への装 コンクリート舗装 の活用について

平成30年10月11日

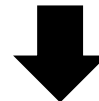
山口県土木建築部道路整備課

■舗装補修事業について

- ①舗装の老朽化や地盤の支持力不足、大型車通行量の増加によりクラック、ひび割れ、わだち掘れが多い箇所
- ②大型車の停止荷重による舗装流動箇所

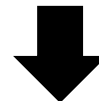


- ①切削オーバーレイや路床改良等も含めた舗装の打ち替えにて補修
- ②半たわみ性舗装、改質Ⅲ型アスファルト舗装にて部分的に補強

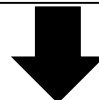


ライフサイクルコストを考えた補修あるいは更新工事を実施すべきであるが、山口県が管理する道路の大部分が舗装の耐用年数を超過しており、それら全てを同時に更新することは予算的に不可能。

また、供用中の路上工事であり、補修工事は原則即日解放、場合によっては基層で数日間供用することもあるが、通行止めという工事は非常に困難。



耐久性が必要な場所以外、舗装補修工事は経済性と施工性を優先せざるを得ない



アスファルト合材を使用した切削オーバーレイや打ち替えを実施

■コンクリート舗装の採用を見合わせた方が適切と思われる場所

①施工後に占用工事が見込まれる路線

→ アスファルト舗装とコンクリート舗装が同一車線内に混在し、走行性が非常に悪い



②交通量が多く、終日の通行止めあるいは車線規制が困難である場所



■舗装補修事業においてコンクリート舗装が採用可能と思われる場所

①視認性を要する箇所

→ 事故防止のため、カラー舗装等により付加車線を着色した方が望ましい箇所

②走行騒音や走行性に配慮しないが良い箇所

→ 郊外や自専道のランプ部



■舗装補修事業においてコンクリート舗装が採用可能と思われる場所

⑤繰り返し荷重により舗装の流動等が予測される箇所

→ 路床のCBRは良好であるが、大型車両等の停止荷重により流動が著しい箇所



舗装補修事業への『コンクリート舗装の活用』

①交通の早期解放

- 工場制作のプレキャスト製品化により現場作業の簡素化、早期解放が可能となる。
また、アスファルト舗装では、舗設時の合材温度や舗設後の解放温度等の制約があり、プレキャスト製品化により品質・現場管理が簡素化可能。

②軟弱地盤上への施工

- アスファルト舗装とは異なり、コンクリート舗装版だと荷重を面で支持し分散することが可能と思われ、軟弱地盤上で亀甲状のクラックが生じるような路線では、セメント改良等が必要となるアスファルト舗装による補修よりもコンクリート舗装の方が有効では。

③施工性の向上

- 補修工事は供用中の道路上での作業であり、コンクリート舗装の配筋や目地処理等の作業手間を省力化する手法、また、ひび割れ抑制や平坦性の確保等を省力化する施工方法の検討、開発

④材料・施工コストの減

- 要補修箇所の延長に対して、補修予算は10%にも満たないため、走行性の確保、管理瑕疵を低減するためには、耐久性よりもコスト優先になっている。

⑤施工歩掛の見直し

- 山口県設計標準歩掛表道路編にコンクリート舗装工の施工歩掛が掲載されているが、実施工との差が大きく、施工業者の負担となっているため、実施工に適合した歩掛に改訂あるいは協会歩掛のみとする等、業者負担の軽減を図りたい。